

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



KAWASAKI CITY

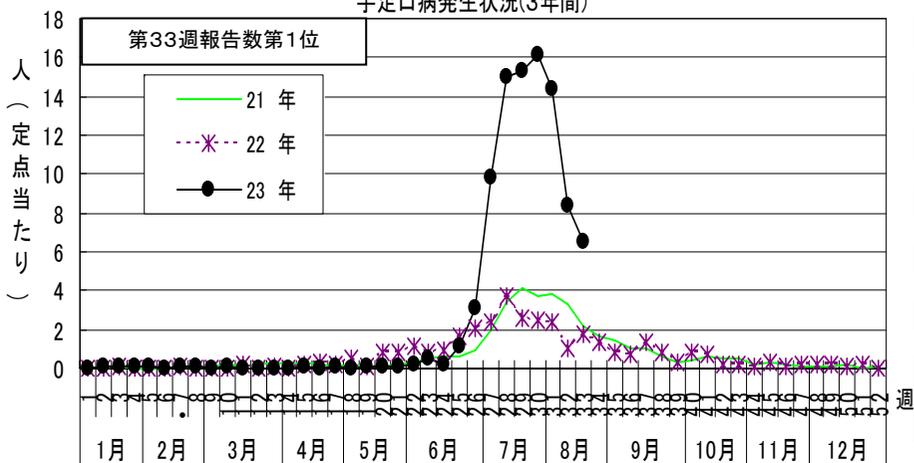
平成23年8月15日(月)～8月21日(日)〔平成23年第33週〕の感染症発生状況

第33週で定点報告数の多かった疾病は、1)手足口病 2)流行性角結膜炎 3)ヘルパンギーナでした。

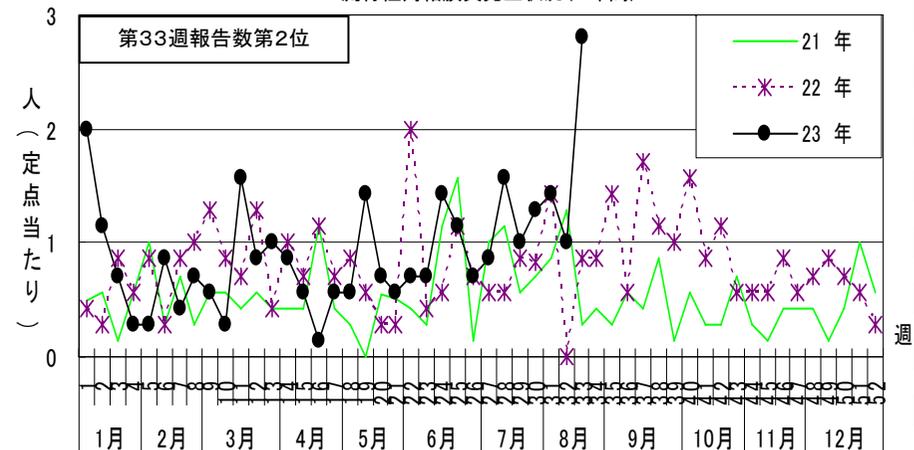
手足口病は定点当たり6.54人と前週(8.66)より患者報告数は減少しましたが、依然として警報基準値(定点当たり5人)を上回る報告数であり、特に多摩区で定点当たり14.40人と高いレベルで推移しています。

流行性角結膜炎は定点当たり2.80人と前週(1.00)より患者報告数は増加し、例年よりも高いレベルで推移しています。特に川崎区で定点当たり9.00人と警報基準値(定点当たり8人)を上回っています。

手足口病発生状況(3年間)



流行性角結膜炎発生状況(3年間)

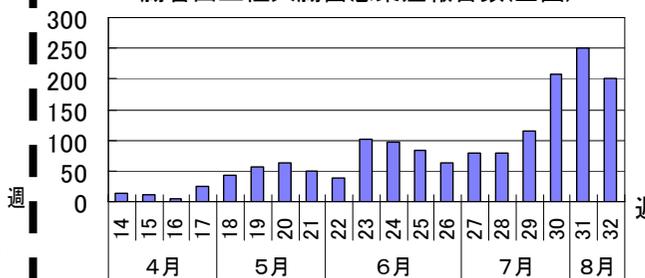


ストップ！！腸管出血性大腸菌感染症(O157など)

川崎市内において、腸管出血性大腸菌感染症の患者等が3週連続(第32・33・34(暫定)週)で発生しています。全国的にも、左下のグラフに示すように夏にかけて患者数は増加傾向にあります。

腸管出血性大腸菌感染症の主な症状は、激しい腹痛、下痢(水様便、血便)及び発熱等で、潜伏期間は1日～2週間(平均3～5日)です。この菌は、感染力が強く、約50個程度の少量の菌でも感染してしまいますので、食品からだけでなく、患者から2次感染しないように、右に示した予防策を徹底しましょう。

腸管出血性大腸菌感染症報告数(全国)



～食品から感染しないために～

1. こまめに手を洗う
2. 食品の衛生的な取扱い
3. 生肉等の加熱(75℃で1分以上)
4. 調理器具を清潔にする

※その他に、食中毒予防のために、食中毒菌を「付けない、増やさない、殺す」という食中毒予防の3原則を徹底しましょう。

～患者から2次感染しないために～

1. こまめに手を洗う
2. 患者の便の取扱いに注意する
(オムツ交換後は特に手洗いを徹底する)
3. 汚染された衣類・寝具などの消毒
4. 患者は入浴やプールを控え、シャワーですませる

※動物との接触による感染と推定された事例もありますので、手洗いを心がけましょう。